

2009年12月25日

横浜エフエム放送株式会社  
代表取締役社長 藤木幸夫様

NPO 法人神奈川県自然保護協会  
理事長 新堀豊彦

## 大山山頂の景観配慮について

貴社の自然環境問題に対する日頃からの取り組みについて敬意を表します。

ところで、大山山頂に貴社による新たな鉄塔建設計画があるとの情報を得ました。聞くところによると高さが現在ある東京電力株式会社のマイクロ波中継塔を遙かに超えるものとのことで、事実とすれば景観上看過する事ができません。

現在大山山頂にある各社の電波塔は国内他地域に見られる多くのものと違い、高さ、形態、色彩について特に景観に配慮した設計がされています。

これには1974（昭和49）年から始まる、地元自然保護団体や県当局及び事業主体による、この地域の景観保全と首都圏の社会機能向上の両立をめざす多数の県民の支持も受けた真摯な協議の歴史が存在します。

貴職におかれましては、この経緯を重く受け止めこの計画を適切なものとするよう切に要望致します。

### 参考

大山山頂で最初の鉄塔建設計画を持ったのは1973（昭和48）年で東京電力株式会社（以下東電と記載）で、その目的は首都圏に安定的に電力を供給するため計画中の新多摩線という超高压送電線保守のためでした。

当初の計画では、38メートルの高さを持つものでしたが、1974（昭和49）年以降関係者の協議の中で、東電は一部の機能の割愛と最新の技術の導入により半分以下の高さ15メートルに押さえ建設することになりました。

また、建設位置に関しても景観上最も影響の少ない場所を選定するために地形模型を作成しての検討も行いました。

その後、テレビ2社が東海地震に備えた中継設備建設を同所で行う計画を持ちましたが、既存の鉄塔に近づけ、一体となるような外観となるような工夫をすることで景観への最大限の配慮をしています。

更に他のテレビ1社が大山山頂に中継施設を持っていますが、これは山頂の社務所の屋根の材質に工夫を加えてこの小屋裏に機器を納めている例があります。